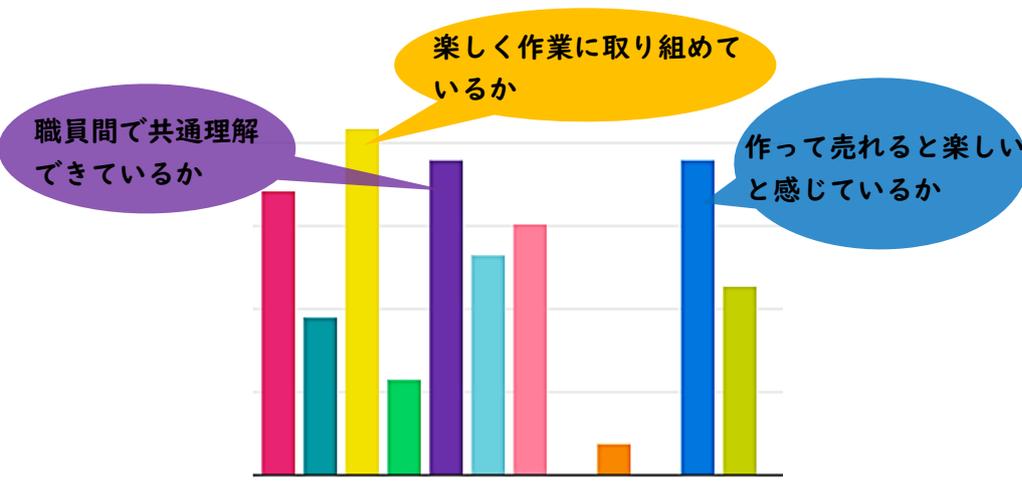


令和5年度 延岡しろやま支援学校 校内研究のまとめ

部門	知的障がい教育部門	学部	中学部
研究テーマ	生徒の実態等に応じた作業学習の在り方		
研究の内容と方法	<p>中学部の作業学習における課題を整理して、これまでの作業種の活動内容や年間指導計画の見直し、地域のニーズや中学部の生徒の実態等に応じた作業種の検討を行い、R6年度以降の作業種を決定した。</p>		
研究の成果	<p>① これまでの作業学習における課題～多かった意見（上位3つ）</p>  <p style="text-align: center;">↓</p> <p>○ 生徒の働く意欲を培うためには、まず生徒が働くことは楽しいと感じることが大切だという意見が出た。そこで、働く楽しさについてリサイクル班、工芸班、クリーン班の3つの班に分かれて話し合った。出た意見が以下の通りである。</p> <p><目的・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的がある。・それぞれの目標がある。・やりがいがある。 <p><協力></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなと協力する。・自分の役割がある。・必要とされる。 <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・増えていく出来高が見える。・達成感や充実感がある。 <p><称賛></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが作ったものを褒められる。 <p><ごほうび・報酬></p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張った分、ごほうびや楽しみがある。・お金をもらう。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>働く楽しさを感じながら活動できるように各班の活動内容の見直しを行い、生徒の実態に合わせた内容に変化させたり、作業内容を精選したりした。</p> <p>○ 職員間の共通理解については、学期ごとや月1回など、必要に応じて各班の職員が作業内容や生徒の支援方法等について話し合いをしたり、確認をしたりする時間を設けることにした。</p>		

② 作業学習の目標の変更について
・ これまでの中学部の作業学習の目標

- 作業学習に関わる人や周囲の人に対して、あいさつをする意識を育成する。
- 作業活動を行う上で必要な、身だしなみを整える態度や意識を育成する。
- 作業活動に関するさまざまな時間への意識を高め、時間を守る意識や一定時間作業を行う態度を育成する。



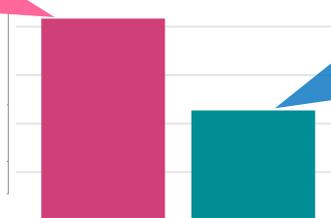
これらの3つの目標はキャリア教育の基盤となる目標であるが、学習指導要領に沿った目標に変更してはどうかという意見が出た。



目標に主体性や働く意欲、働く楽しさ、協調性などの言葉を入れることになり、今年度中に修正することになった。これまでの目標は各作業班に共通する目標として残すことにした。

③ R6年度以降の作業種について

3つの作業種の活動内容を改善して行う。



3つの作業種の内、どれか1つを新たな作業種に変更する。

これまでの3つの作業種(リサイクル班、エ芸班、クリーン班)を今後も継続して行っていくのか、それとも新たな作業種に変更して行っていくのか話し合いを行った。

新たな作業種について、生徒たちが働くことは楽しいと感じたり人の役に立っていると感じたりすることができる活動内容にはどんなものがあるのか意見を出し合った。



生徒の実態に合っていて実際にできそうな内容のものがいくつか意見として出たが、最終的にはR6年度以降もこれまでの3つの作業種の活動内容を改善して行っていくことになった。

今後に向けて
(課題)

本年度は、生徒の実態等に合った作業学習の内容について十分に時間を取って話し合いをすることができた。次年度は、生徒たちが働くことと楽しいと感じたり人の役に立っていると感じたりすることができているか確認しながら、より実態に応じた内容に改善していきたい。